

骨軟部組織感染症 Update

善家雄吉

Yukichi ZENKE

産業医科大学病院
救急科・四肢外傷センター

骨軟部組織感染症に含まれる病態は多種多様であり、術後合併症はこれら感染症との闘いと言っても過言ではない。この企画を担当するにあたって心掛けたことは、若手医師から経験のある医師すべての方に対して、骨軟部組織感染症の歴史の変遷から最新の治療までの知識を一度に理解できるように構成することである。現在、本分野の第一線で活躍中の先生に趣旨を説明したところ、ご多忙中にもかかわらず執筆をご快諾いただいた。以下、概説する(敬称略)。

1. 高原俊介：overview として、歴史の変遷から現状の問題点や今後の期待を豊富な文献とともに紹介。
2. 山田浩司：抗菌薬の使用方法につき、各種ガイドラインからみた最新の薬物治療について解説。
3. 崔 賢民：本領域における感染症の起炎菌として最も頻度の高い黄色ブドウ球菌感染に対し、バイオフィルムの観点より基礎研究の成果とともに解説。
4. 川島真之：骨関節感染症治療のスタンダードとして普及している川島式局所持続洗浄療法と近年行っている独自の治療方法を交えて紹介。
5. 長谷川真之：重症開放骨折における深部感染に関して、多くの症例経験からその治療戦略を詳細に解説。
6. 圓尾明弘：近年、急速にその治療概念が浸透し、多くの症例に福音をもたらしている持続局所抗菌薬灌流(CLAP)療法につき、その過去・現在・未来について詳述。
7. 姫野大輔：治療に難渋する感染症症例に対して、わかりやすく難治性の原因を解説いただき、CLAP 療法のポイントにつき教育的症例を用いて解説。
8. 佐藤直人：特殊な領域として、とりわけ基礎疾患を伴った上肢・手部領域の難治性感染症に対して詳述。
9. 馬場秀夫：脊椎分野の感染症は、罹患椎体へのスクリュー挿入の試みについて豊富な臨床例とともにその治療成績について詳述。
10. 安藤恒平：壊死性軟部組織感染症は、重篤な場合には生命の危険に晒される危険な病態である。その治療の歴史の変遷と現在の最新治療につき詳述。

以上の充実したラインナップで、最新の治療をそれぞれの先生が実臨床に即して解説している。また本号では触れていない人工関節周囲感染に関しては、本誌 2022 年 3 月号で特集されているため合わせてご参照いただければと思う。本書を手にとった読者諸氏にとって、明日の臨床にすぐに役立つことを願う。